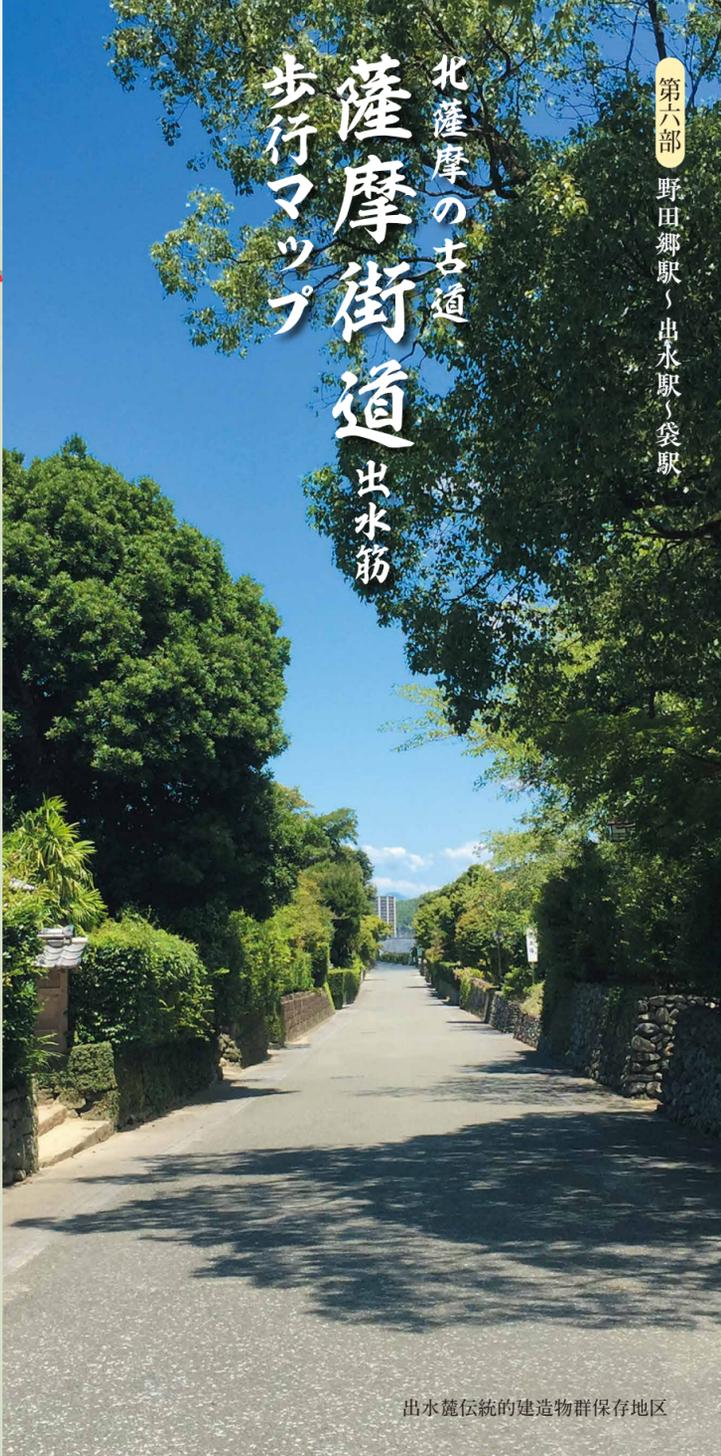


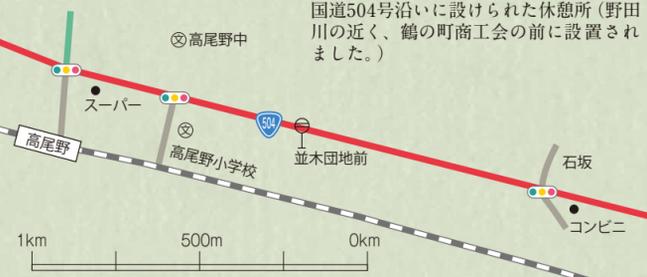
北薩摩の古道 薩摩街道 歩行マップ



出水麓伝統的建造物群保存地区



昭和末の頃、一里塚が残っていたようです。現在、その根跡を見つけることはできません。(写真の中央、電柱付近)



文治二(一一八六)年、島津忠久は薩摩・大隅・日向三国の地頭職を任せられました。そこで忠久は家臣の本田貞親を任地に南向させました。本田は野田を中心とする一帯の豪族を平らげて山門院の木牟礼に城を築き島津氏三州支配の基礎をつくりました。忠久自身が木牟礼に定住したことはないがこの城は薩摩の国の守護所であり三州の中枢を担うこととなります。このあと、忠時・久経・忠宗・そして五代貞久までこの城を拠点としました。木牟礼城跡から野田郷に向う途中に鎮国山感応寺があり隣接して五廟社がある。そこには島津初代から五代までの当主が祀られています。

木牟礼城跡

文治二(一一八六)年に島津家初代当主・忠久が家臣・本田貞親に築かせた城で当時の薩摩の守護所でありました。(国道3号上にある木牟礼城跡)



8 高尾野町・中の市

高尾野の薩摩街道沿いには商家が数多く並び「野町」と呼ばれていました。野町の市には「中の市」といい春彼岸の中日に立てられる、名産のソバを客に振るまうことから「ソバ市」ともいわれるこの市は現在でも引き継がれており春彼岸の中日と翌日の2日間为数万の人出があり賑わっています。



9 三百塚

文禄二(一五九三)年、朝鮮出兵中の薩州家七代島津忠辰は豊臣秀吉の怒りに触れ、領地は没収され、幽閉中に病死し、薩州家は絶えました。沢山の小石を積みあげた三百塚は忠辰の後を追って殉死した将士の数の多さからその名がついたと伝えられています。

10 県指定有形文化財 出水御飯屋門

この武家門は島津義弘が居城していた帖佐(今の帖佐小学校)の門を出水に移し出水へ隠居して薩摩北辺りの守りに任じたいと思いつき移築を命じました。義弘の移住は実現しませんでした。以後この地に「御飯屋」が置かれ、その後この地に「御飯屋」が残っています。「御飯屋」は江戸時代、藩主が地方巡府または参勤交代の旅の宿泊所でありました。



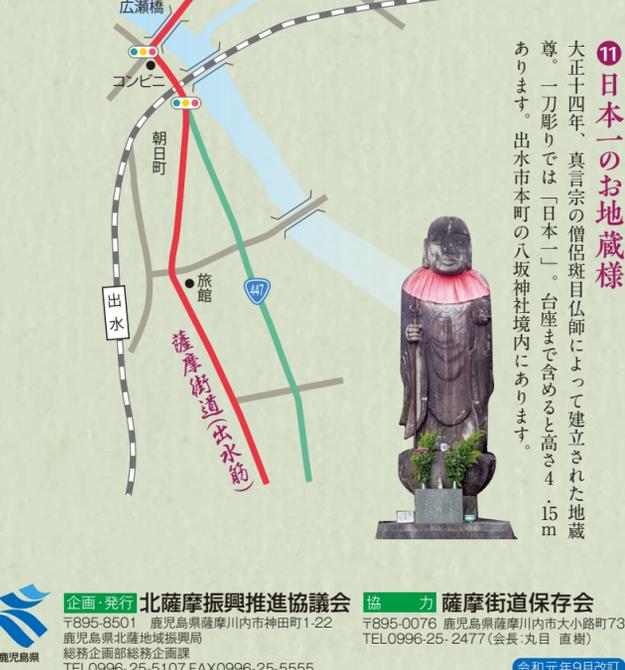
出水御飯屋門(現在は出水小学校の正門)

出水麓まつり

江戸時代に旧薩摩藩の国境の拠点出水市麓地区などの整備に尽力した第三代地頭の山田昌巖(しようがん)翁の遺徳を偲んで行われるまつりです。昔の若者の城攻めの訓練を再現した時代絵巻「稚児請の式」(ちごもうしのしき)や県指定無形民俗文化財「種子島楽」など多数の武芸や郷土芸能が披露され、今では市の一大イベントになっています。



西組 東組



11 日本一のお地藏様

大正十四年、真言宗の僧侶斑目仏師によって建立された地藏尊。一刀彫りでは「日本一」。台座まで含めると高さ4.15mあります。出水市本町の八坂神社境内にあります。



いずみ観光牛車